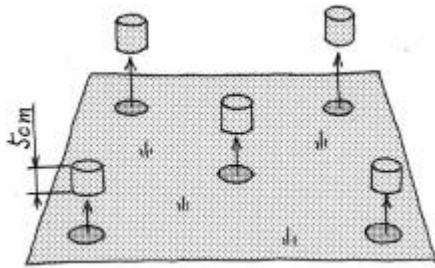
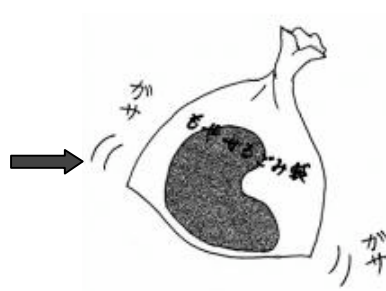


[土] 測定用サンプルの作り方

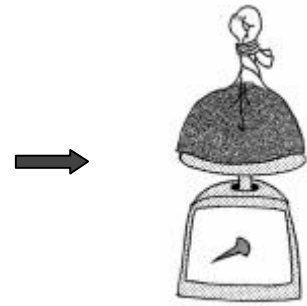
A. 耕されていない土 (庭土など) の場合



深さ 5cm で、なるべく広い面積の中から、数箇所を選んで採取。
※ 正確な取り方は裏面参照。



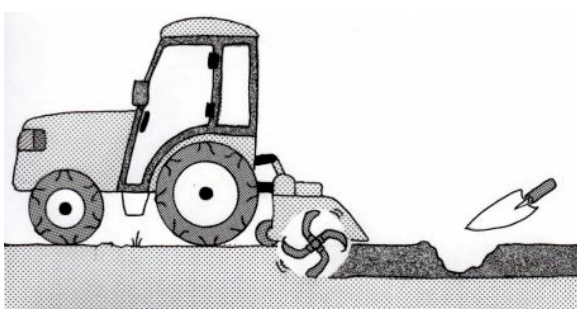
それらを合わせて大きな袋やバケツなどで混ぜる。



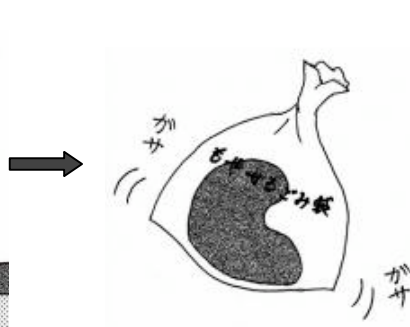
その内 700g を袋詰め。(注) チャック付や手提げ型ではない袋にして下さい。

当初表面にのみ分布していたものが、染み込んだり (5cm 以内) 雨で移動したりしているものと思われます。その土地の平均的な値を知るためには、正確に深さ 5cm で (固ければ 3cm でも可)、表面に対し垂直に、なるべく広い面積から数箇所を選んで採取し、容器内で十分にかくはんし均一にして下さい。その中から 700g 程度をビニール袋に入れ (チャックなし)、輪ゴム等で密封します。その際袋の入口付近に土が付かないように注意! 測定申込書に採取した深さを明記して下さい。

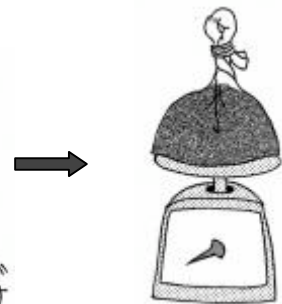
B. 耕された土の場合



耕された深さまでの土を数箇所からたくさん取る。



それらを合わせて大きな袋やバケツなどで混ぜる。



その内 700g を袋詰め。(注) チャック付や手提げ型ではない袋にして下さい。

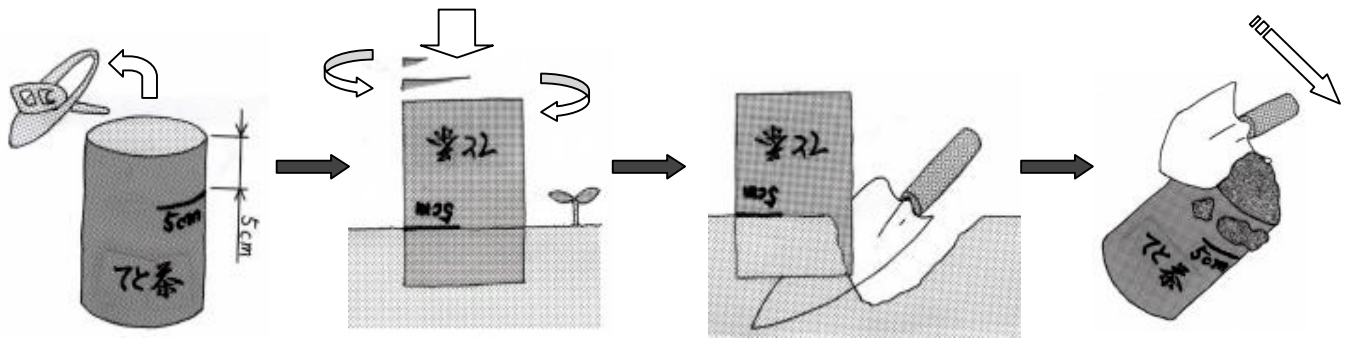
耕耘された深さまでセシウムが分布しているので、この深さまでの土をなるべく大量に取って十分にかくはんし、その中から 700g 程度をビニール袋に入れ、輪ゴム等で密封します。

その際袋の入口付近に土が付かないように注意!

測定申込書には、採取した深さではなく耕耘した深さを明記して下さい。

測定時、普通に湿った状態が取り扱いやすいので、乾燥させずに袋詰めしていただき、てととでは湿った状態で測定します。そのため乾燥した土よりも測定値が 2~3 割低く出てしまいます。農水省のデータは深さ 15cm までの乾燥土を測定したものであるため、それと正確に比較するには、今回の測定値を深さ 15cm で耕された乾燥土として換算する必要があります。 耕された土の場合、深さによる差に関しては、てととでの測定値×耕耘した深さ (cm) / 15 で換算できますが、湿り具合による差が残ることをご留意下さい。

※ 空き缶を使った 深さ 5cm までの土の取り方 (A の場合)



細めの缶の上面を缶切りで開け、縁から5cm下に印を付ける。

草を取り除いた平らな地表に対し、缶を垂直に、5cmの印まで差し込む。

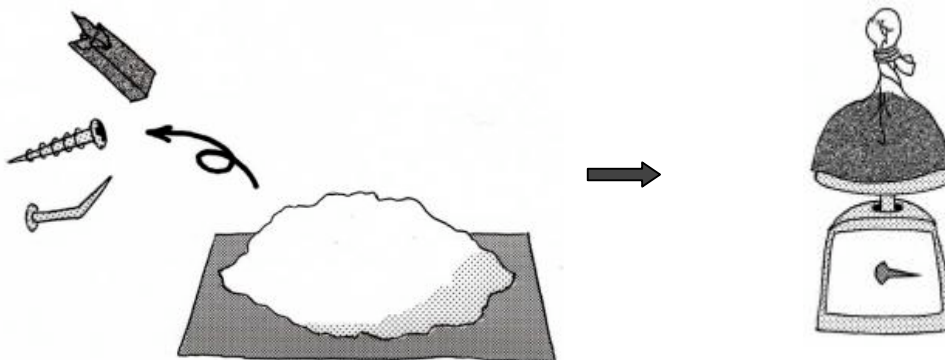
横から缶の口をふさぐように移植ごてを入れ、中に取り込んだ土がこぼれないように取り上げる。

縁で土をすりきり、缶の外側に付いた土は払い落とす。石が入っていたらやり直す。

缶の直径が太かったり土が乾いているときは、うまく採取できないことがあります。細めの缶で、土が適度に湿っている時に行ってください。移植ごてのみを使って採取するときは、深さ5cmを保ちながら一箇所の採取面積を広めにした上で、数箇所から採取するようにして下さい。とととでは、どのように採取されたかによらず、持ち込んでいただいた土の測定値を出すことになります。特記事項は測定申込書に明記して下さい。

[灰] 測定用サンプルの作り方

※ 灰は高濃度で放射能に汚染している可能性があります。吸い込まないよう必ずマスクを付けて作業して下さい。



くぎなどは取り除く。

やや厚めのビニール袋に250gを袋詰め。

(注)チャック付や手提げ型ではない袋にして下さい。

当面は安全のため、灰を入れて持ち込んでいただいたビニール袋に測定員が水を加え、飛散しないようにしてから測定します(数値は乾燥状態に換算して出します)。このため(幅22~23cm)×(深さ30~35cm)程度のやや厚めのビニール袋(チャックなし)に、入口付近に灰を付けないように入れ、口をねじって輪ゴム等でとめ、完全に密封して下さい。重量で250gぐらい。くぎ等袋にキズを付ける恐れのあるものは取り除いて下さい。